

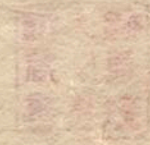
跡見短  
大町書  
館藏書

竹内榮久編

鈴木高治主

英雄百人一首全

小森宗次郎版



素盞鳴尊 天照太  
 神の四弟を忠猛じ  
 く出雲のひ川上を  
 大蛇とまろくいあ  
 姫とくひいんをの  
 彼のあま宮造しを桂  
 の時此歌をうまか  
 武内へお行か仁徳近  
 六朝の政と司り年三  
 百五十八よく薨び  
 聖徳太子の用明大皇  
 の皇子を十六の時  
 宇屋と退治しひ  
 とれよのち益佛  
 法と信りあひたる

素盞 鳴尊	武内 宿祢	聖徳 太子	紀 朝雄	遠守 為憲
素盞 鳴尊	武内 宿祢	聖徳 太子	紀 朝雄	遠守 為憲
素盞 鳴尊	武内 宿祢	聖徳 太子	紀 朝雄	遠守 為憲
素盞 鳴尊	武内 宿祢	聖徳 太子	紀 朝雄	遠守 為憲



花  
 湯掛鞍の  
 花  
 初  
 花  
 花  
 花

鳥  
 鳥  
 鳥  
 鳥  
 鳥  
 鳥

風  
 風の井  
 風  
 風  
 風

月  
 月  
 月  
 月  
 月

経基の貞親親王の子  
 子文武の勇將也  
 清和源氏始祖  
 将門の良將の子  
 平親王の弟  
 内裏で造り朝威  
 官軍の爲亡せられぬ  
 満仲の経基の子  
 勇まると殊を叙  
 保昌の大納言元方  
 頼光の爲母  
 方の叔父世の公光  
 の臣が思ふ大勢  
 誤りからず  
 頼光の満仲の子  
 中子先を得これぞ  
 妖鬼の名を奉ら  
 良門の将門の子  
 授州見陽野を頼光  
 の臣綱と戦い組討  
 つし首を斬りし  
 義家頼義の末子  
 子執かき書や興  
 州の戦いも一攻  
 りをを負任落行遊  
 子天ついで秋は

六孫王  
 経基

あそしをも忍びし  
 志をば  
 志あん命をわ  
 けし  
 けり



将門  
 平

志をわくわく  
 風の後よ  
 枝をわくわく  
 はなのや  
 せき



武藏  
 丑郎  
 貞屯

敵をかたて  
 ときをわくわく  
 情を我仇  
 けり



源  
 満仲

松蔭の浪  
 浮き  
 ふくか  
 のむ  
 任吉の林



義原  
 保昌

かびの  
 ねね  
 やと  
 ね  
 ね  
 れ



頼光  
 相馬

中く  
 信  
 本  
 けり



良門  
 太郎

けり  
 けり  
 けり



渡邊  
 綱

今  
 けり  
 けり



八幡  
 太郎  
 義家

けり  
 けり  
 けり



安倍  
 貞任

けり  
 けり  
 けり



清盛忠盛の子  
 美朝美平と討ち  
 戦い勝利を得た  
 ちまち大鳥の羽  
 のまじり位昇進  
 せしむ  
 治承元年山の  
 衆大内來る頼政  
 又三三騎中達  
 智寺三三の  
 衆徒きり合ひ  
 せし頼政を由  
 なる中より和歌  
 よしなれは  
 三三の勢い  
 浄妙來三井寺の  
 僧かろく治の戦  
 こころけし  
 共みきり  
 て敵味方の目  
 おどろかしらる

安倍  
 宗任  
 毒の木の葉とらふれども  
 わが家人の信とていづれも

平  
 忠盛  
 あつみの月も鳴る浦風  
 浪がるるまをよるとつて

仲正  
 清盛  
 清盛はこみまよ大なるこみ  
 清盛はこみまよ大なるこみ

藤原  
 忠度  
 若きつれ山信る所可れ

頼政  
 一來  
 足邊をこく敵の本を武老

筒井  
 浮舟  
 宇治川は流むをいねに佛

伊豆  
 仲綱  
 山標もろとて社をひり  
 たつぬ人とてあるまなり

播磨  
 治郎  
 志あるゆゑ省とせしむ  
 名も宇治川は流つて

頼政  
 一來  
 足邊をこく敵の本を武老

治郎  
 志あるゆゑ省とせしむ  
 名も宇治川は流つて



維盛(重盛)の嫡子  
二門西園(西園)の嫡子  
より志(ま)りて(室)嶋

はありて(室)嶋の  
わが(室)嶋の(室)嶋の  
つ(室)嶋の(室)嶋の

經正(經盛)の子(經盛)  
の(室)嶋の(室)嶋の  
彈(室)嶋の(室)嶋の

梶原(平三)の鎌倉の  
侍(侍)の(侍)の  
ら(侍)の(侍)の

つ(侍)の(侍)の  
ま(侍)の(侍)の  
ま(侍)の(侍)の

義仲(義仲)の(義仲)  
の(義仲)の(義仲)  
の(義仲)の(義仲)

津(津)の(津)の  
巴(巴)の(巴)の  
の(巴)の(巴)の

義高(義高)の(義高)  
の(義高)の(義高)  
の(義高)の(義高)

和(和)の(和)の  
十六(十六)の(十六)の  
の(十六)の(十六)の

能(能)の(能)の  
の(能)の(能)の  
の(能)の(能)の

切(切)の(切)の  
の(切)の(切)の  
の(切)の(切)の

中(中)の(中)の  
維(維)の(維)の  
左(左)の(左)の

行(行)の(行)の  
盛(盛)の(盛)の  
の(盛)の(盛)の

但(但)の(但)の  
馬(馬)の(馬)の  
守(守)の(守)の

梶(梶)の(梶)の  
原(原)の(原)の  
平(平)の(平)の

景(景)の(景)の  
曾(曾)の(曾)の  
本(本)の(本)の

義(義)の(義)の  
仲(仲)の(仲)の  
本(本)の(本)の

巴(巴)の(巴)の  
女(女)の(女)の  
の(女)の(女)の

冠(冠)の(冠)の  
者(者)の(者)の  
義(義)の(義)の

海(海)の(海)の  
聖(聖)の(聖)の  
小(小)の(小)の

幸(幸)の(幸)の  
成(成)の(成)の  
無(無)の(無)の

能(能)の(能)の  
谷(谷)の(谷)の  
切(切)の(切)の

折(折)の(折)の  
か(か)の(か)の  
あ(あ)の(あ)の

流(流)の(流)の  
あ(あ)の(あ)の  
あ(あ)の(あ)の

号(号)の(号)の  
号(号)の(号)の  
な(な)の(な)の

若(若)の(若)の  
若(若)の(若)の  
若(若)の(若)の

か(か)の(か)の  
か(か)の(か)の  
か(か)の(か)の

は(は)の(は)の  
は(は)の(は)の  
は(は)の(は)の

を(を)の(を)の  
を(を)の(を)の  
を(を)の(を)の

あ(あ)の(あ)の  
あ(あ)の(あ)の  
あ(あ)の(あ)の

あ(あ)の(あ)の  
あ(あ)の(あ)の  
あ(あ)の(あ)の

あ(あ)の(あ)の  
あ(あ)の(あ)の  
あ(あ)の(あ)の

あ(あ)の(あ)の  
あ(あ)の(あ)の  
あ(あ)の(あ)の



時以鎌倉の權  
けりて智恵の  
士なり

義経美朝の九男  
て無敵の良將と  
尊討平家と亡

数度軍功が然  
に評議者の為と  
不和をうけ其行

建久四年鎌倉の  
くもの山狩の夜  
あてられ景季此

歌をいふ  
五兩風共やると

後信忠信兄弟は  
共義経に従ひ其功  
あり兄弟島戦り

一侍て死に弟は  
山々美解あり

横川覚範と怒り  
衆を打ち其後物ね  
ける大強の者なり

古史に頼朝治承四  
年八月文京上人の勸  
しより信忠を於て棋上

一夫の平家と打て  
天下の乱れと名り  
の文武の良將なり

北條  
法華經の序とて  
やまが来とてとれ

九郎  
そをりて信子  
おとくをりて

義経  
吉野山宿の志  
つとて一人は

源  
この小社好  
みまじし人

佐藤  
おとくをり  
おとくをり

四郎  
おとくをり  
おとくをり

忠信  
おとくをり  
おとくをり

平次  
おとくをり  
おとくをり

権原  
おとくをり  
おとくをり

右大将  
おとくをり  
おとくをり





景清の平家の人々  
 西海に下つては門  
 の入水と云ひはる  
 たりと云ふ  
 畠山重忠の智仁勇  
 無なる將史強てきた  
 弱と助く建久四年五  
 月佐とみ富子の裾の  
 時曾我兄弟  
 結經とけんといひ  
 此歌を兄弟今宵  
 限りとまりて其夜  
 本意とらふけり  
 朝比奈色女腹を生  
 三盛の三男と云  
 強勇比類と和田  
 合戦の初二日夜烈  
 一戦由は濱と云  
 大船は衆行をば  
 泰時の政を司と  
 り民の愁を助け君の  
 為に志と成し日夜  
 寢食と安くせし兼  
 久の後四海太平を  
 一此人の徳也  
 時頼の民に衣と國々  
 の地以奉行非道名  
 あんん國とめり

上総  
 七三  
 白山  
 庄司  
 曾我  
 計郎  
 徳成  
 吾我  
 五郎  
 時致  
 宗津  
 頼綱  
 入道  
 朝比奈  
 三郷  
 義秀  
 村野  
 氏於  
 初老  
 小條  
 泰時  
 鏡月  
 坊  
 西明寺  
 時頼

延びたるおれ流やあられりも  
 きんぎん人乃初とらんめしん  
 科あらん時もと何とせぬあなを  
 あまの人はいづいづとぞ  
 ちあつとせうおぼへ小まの  
 このらつとらふなりと志れ君  
 ちととる若海よとする宿も成  
 けとる云々ありまもかさん  
 月影裏秋を夜守まなりぬる  
 なれらるおむ昔のはびらるも  
 裏切とせし悟る目とつけく  
 敵よりせりうらもさばし  
 この書とせりうらもさばし  
 ぬり書物にたあしとせり  
 いとあはれ女なむ社とのあはれ  
 是の教あんなもあはれは  
 物あはれを身と捨たまは士あ  
 八千宇治川の瀬またるも  
 我度と思ひさあかきるん  
 頼むまじきとぞあはれらる



其善惡をばい難言  
はなり是をばい難言  
諸人歸依ありあり  
二藤金道は高時の足  
高時兼信は謀めて  
てすうれば是非あり  
世とのまは高野より  
くるや  
人見四郎高時の子  
は歸して戦ふ武  
分傾くあり手は  
上りて花く討死  
是後廿二族あり  
正成智謀のつたよ  
くもる河へ意を諒と

大衆の  
入道  
善悪  
入る  
信悪  
人見四  
入る  
恩阿  
内之衛  
資忠  
捕河内  
半官  
正成  
入阿  
寂阿  
古水  
法寂  
左兵衛  
左兵衛  
情督  
金義  
足利  
將軍  
尊氏  
河守  
阿守

好まざるの苦しき事を  
まはさるるやわらひなきはし  
はるまじ死なぬ旅のまは  
まはりくかえり浮世は  
花さつぬ老木の根をちぬると  
そのまはさるるまはるかた  
まはさるるまはるかた  
まはさるるまはるかた  
まはさるるまはるかた  
まはさるるまはるかた  
まはさるるまはるかた  
まはさるるまはるかた  
まはさるるまはるかた



夏はち氏の子か  
 昔伯父直義義  
 又和歌とくは  
 公天華氏の臣なり  
 歌道名高く後武  
 槍道山とす  
 義貞元弘高時  
 下建武良和と  
 戦ひ帝とらさし諸  
 国勇とるゆに名  
 將れも軍事志  
 惜はる越路  
 の雪とまらぬ

左兵衛 左衛門 新田 左衛門 義貞 佐々木 貞俊 貞俊 貞俊 貞俊 貞俊

梓弓はれしをちりも引直さく  
 人よまえりき目とををせらる  
 西ちよしとくぬ人のぬちるは  
 まそくたのめのみ弓矢ありたり  
 我をよの涙は原と家新とま  
 ちをそをの涙は原と家新とま  
 ち人の世はあつたかむねも  
 うきうのうらぬ我れありり  
 かをそをの涙は原と家新とま  
 とをのこまをあつたうよ



正行父正成の遺跡と  
 守り文武は米大  
 將なり  
 細川頼之の義將軍  
 の不さし天下の乱  
 とし仁とて政  
 変とて行ひはれ  
 世の中つるあし  
 伊賀の局は後家  
 守の娘吉の御寄注  
 女強くまはとも及  
 今川貞世の御寄注  
 了俊の御寄注  
 して我子と成りし人

細川 貞俊 貞俊 貞俊 貞俊 貞俊 貞俊 貞俊 貞俊 貞俊

かつしとがひておもを梓ゆみ  
 なきおまのる名とをとむ  
 人をとつてよよも目とまに  
 人こそがなれあれ世の中  
 係しをねの風りるはれ  
 たりとよをね夜半の月影  
 遠きし木の木はまのちかぐよ  
 さきよらじのまをそをう  
 人ちよんよまを人あを  
 人よてもたき人をかあき



よるに其事をくもる

宗良親王後醍醐

帝の皇子へ口出せり

合道將軍とて討

た名譽と新業勅

横はあつたふらの詔

とくわつ

千葉成成を恨味

方と集め下さる城

らもこの共防後御

尽く城外阿る聖

て此歌下り自歌

義政文明十合世

とあり東山阿居

宗良 君う為せのなる何かおらん  
捨るかひあらいのちありせり



改義 この浪合よりむる身をやつ



普光院 而れを定まらばしんよかま  
義教 めちちをうりあまをさうり



千葉以 へて終りて弟ふ人あつて  
維義 日しよひひはるや阿院佛



慈徳院 秋庵六月生つ山のやもとそ  
義政 かてかく空をたれおしをさ



中村 林のすのけとらとと  
基佐 なるをさうりなるをさうり



中村 なるをさうりなるをさうり  
重水 なるをさうりなるをさうり



大田 なるをさうりなるをさうり  
釋後 なるをさうりなるをさうり



東野 なるをさうりなるをさうり  
常縁 なるをさうりなるをさうり



秋後 なるをさうりなるをさうり  
好景 なるをさうりなるをさうり



東野公葉之常  
地の未孫と歌道よ  
名高し時領地發  
妙椿と攻ふしは

下総屋で六文の年  
 思ひゆく此歌ま  
 入つては後ま  
 久々天感下領地  
 返つたつて  
 山岩野父重清林  
 比則山岩の疾之氏  
 清教逆の御謀て用  
 老丹金原卷入る者  
 是を討つて出花  
 我を討死し  
 時隆石見の国の住  
 人そ軍又忠なりよ  
 ？一室あり寝るま  
 くとどろ

我実佐木の未流  
 其近傍國之或  
 時東雲我も此  
 といく源氏の天下  
 の栄ん吉祥なりと  
 然る者此歌よしは  
 清水大層境山城も  
 大層之く雑芸  
 の折柄文々其城  
 ののみなる奇す  
 天れ八石合則の  
 歌と答切願して  
 果て惜へり  
 上枝北條の戦も移  
 難波田流行むと見

小林  
 氏後

おもひんきき泉のながれゆく  
 鈴のおよせらむおとろ好歌



山岩  
 上野  
 重清

越えりむ死女の岩にがらと  
 んつせらむおと 法のものおと



九郎  
 田子  
 時隆

わくくは又あまきとあひまわ  
 かみみかりはとせのふがしがと



長慶  
 義実

かきりたまはあむゆかむゆの  
 緋をのれも弁京のやま



六角  
 義実  
 冷泉

あやとよ清くおんが源の  
 なづきのまこち 矢代も其世



石谷  
 清季

あまのうらな名をか下 喜の中  
 あぶるもろむらむひあつとち



山中  
 主儀

かまじよはもとそふを義の  
 なを越波男の岩れゆくを



難波  
 田子

まま 義とまもつたしんはとらいりて  
 来のむらぬなむも越えぬ人



正忠

かまじよはもとそふを義の  
 なを越波男の岩れゆくを



難波  
 田子

まま 義とまもつたしんはとらいりて  
 来のむらぬなむも越えぬ人



條古由約事此  
よとれ代五歌  
一うろこせ

三浦義意道の子  
大勇一交四股  
の御手て只一人討

首出無戦一て自ら  
首かく死あ其の  
首三年死せぬ

氏茶天性勇將  
一七歌道名茶ま

盟正年正月廿五日  
具命丁下四子  
費又竹内米久  
馬鞍町三上十子  
出兼小森宗次郎

三浦義  
入及  
及  
あまがとよくおひはるれを  
むとちのまにあつるなるを

三浦  
義意  
あが代とて八千代もや  
うらけうらのあけたるがれ

大石平  
治兵工  
樊念とらむわ  
下知はるる海鬼よおとま

北條左  
宗太夫  
中くは清め能はるるも  
風りまをさる山の下

常陸院  
義尚  
今見ざる曇れ近江の流山  
たむのあはせきの新ねとあう



128582

